

水災紀念の碑

◆ 阪神大水害 ◆



洪水水位の碑

昭和十三年七月、当地を襲った阪神大水害で住吉川が氾濫し、流域に大きな被害をもたらした。この水災記念碑には、右図のちりばねに、最高時の洪水水位が刻まれている。このほか、住吉川管内にも、同災害を記念した碑が建てられている。

東灘区役所

昭和十三年（一九三八年）七月五日、六甲山系の各所で山腹崩壊が発生した。活発な梅雨前線による豪雨のため、それは土石流となり市街地を襲った。そのために死者・行方不明者六百九十五人、被災家屋十五万戸に達する大災害となったのである。この阪神大水害からの復興を機に、溪流の土砂流出対策が直轄事業により本格的に取り組まれるようになったのである。

― 当時の惨状を記録し、その復興を記念するために建立された水難碑がこれである。風化する記憶に警鐘を鳴らすとともに、災害に対する日頃の備えを訴えるものである。なお、この碑の台座には災害時の最高水位を示してあるが、碑の東側を流れる住吉川の現在の河床とは実に六メートルの差がある。

碑文

昭和十三年七月五日

右有馬道

水災紀念

左六甲道

洪水水位の碑

昭和十三年七月、当地方を襲った阪神大水害で住吉川が氾濫し、流域に大きな被害をもたらした。この水災記念碑には、台座の右わきに最高時の洪水水位が刻まれている。このほか、住吉学園内にも、同災害を記念した碑が建てられている。

東灘区役所



▶ 交通案内

◎JR東海道線住吉駅下車 神戸市営バス38系統白鶴美術館前バス停下車 徒歩約5分

▶ 所在地

兵庫県神戸市東灘区住吉台地先

▶ 水系名及び溪流名

住吉川

▶ 問い合わせ先

建設省六甲砂防工事事務所 調査課 電話078-851-0535



49

兵庫県

◎建立者／佳音村親衆地区

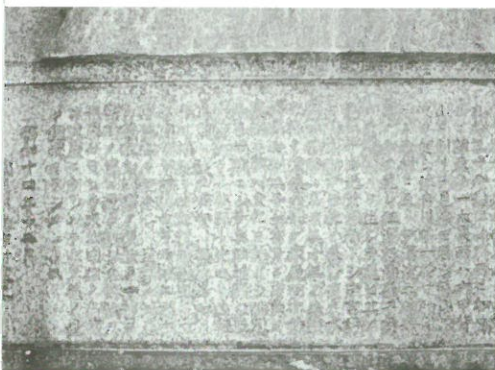
◎建立年／昭和十四年十二月

◆阪神大水害◆

福無門の碑

阪神大水害に関する石碑である。

台座にある解説文中「…惨害ノ現状ノ一部ヲ当時ノ儘ニ遺シ親シク惨状ヲ視察セラレシ末次内相ノ扁額ヲ流石ニ刻シ以テ永ク後ノ世ノ鑑戒タラシメントス」とあるように、後世への教訓とするため流出してきた転石(約二十トン)に碑文を刻み、建立された。なお、碑の高さは水害時の水位を示しており(約三メートル)、「…濁流土砂奔馬ノ如ク荒レ狂瀾怒涛幾千貫ノ巨巖唸リヲ生ジテ飛ビ…」という解説文と共に当時の災害のすさまじさを伝えている。



碑文

禍福無門 内務大臣 末次信正書

維時昭和十三年七月五日午前九時三十分連日降雨ニ加フルニ朝夾倏倏ノ一大豪雨ハ六甲背山ヲ削リテ見ルモ恐シキ山津波ヲ起シ住吉川畔一帯ヲ初メ殆ド全村ニ互リテ濁流土砂奔馬ノ如ク荒レ狂瀾怒濤幾千貫ノ巨巖唸リヲ生ジテ飛ヒ其ノ凄慘ナル光景慄然トシテ言語ニ絶ス斬クテ此ノ未曾有ノ水魔ハ時餘ニシテ三十三ノ生靈ヲ吞ミ流失全壊家屋百有餘全村七割二千七百戸ニ多大ノ災禍ヲ興ヘ文化ヲ誇リシ住宅街モ一朝ニシテ土砂堆積シ巨巖磊砢タル荒野ト化セリ凶報上聞ニ達スルヤ畏クモ七月十日待從ヲ御差遣被遊具多大ノ内帑ヲ不賜セラルル茲ニ稀有ノ慘禍ヲ記念シ尊ノ鴻恩ヲ銘記シ慘害ノ現狀ノ一部ヲ當時ノ儘ニ遺シ親シク慘狀ヲ視察セラレシ末次内相ノ扁額ヲ流巖ニ刻シ以テ永ク後ノ世ノ鑑戒ヲラシメントス

昭和十四年十二月
武庫郡住吉村建之



阪神大石駅付近



- ▶ 交通案内
- ◎ JR東海道本線住吉駅下車 徒歩約15分
- ▶ 所在地
- 兵庫県神戸市東灘区住吉町3丁目地先 学校法人住吉学園内
- ▶ 水系名及び溪流名
- 住吉川
- ▶ 問い合わせ先
- 建設省六甲砂防工事事務所 調査課 電話078-851-0535



◆ 阪神大水害 ◆

有備無患の碑

阪神大水害時に大きな被害をもたらした住吉川に面した本山村(現神戸市東灘区)の惨状を後世に遺すことと復興を祈念して建立された石碑である。台座前に刻まれた解説文中には「死者拾壹名傷者不知算加之流失全半壊家屋七百余棟埋没浸水家屋千五百余」と当時の被害のすさまじさが記されている。



有備無患

海軍大将末次信正書

維時昭和拾叁年戊寅自晚春霖澍至七月五日未曾有之豪雨襲来焉六甲青山起山津波山腹飛瀑各河川翕然氾濫焉濁流滔々巨岩累々與砂木流奔爲鳴動轟々忽焉化爲荒野矣可憫死者拾壹名傷者不知算加之流失全半壞家屋七百餘棟及埋没浸水實壹千五百有餘棟嗚呼其凄慘不可名状而巳此報達 天聰畏被遣侍從且賜內帑 皇恩殊絕烏有不感泣哉惟造化之威力強大也唯爲莫畫轉禍爲福之策之外即舉村一知力復興拳々不倦歲餘漸竣成矣人力亦不可莫知也茲建碑爲後鑑之記念云爾

昭和十六年辛巳春

本山村長 松田七右衛門

訳文

時に昭和十三年戊寅の年、晩春より長雨が降り続き、七月五日になつて、未だかつてない豪雨が襲つてきた。六甲の山々は山津波を起こし、山腹はまるで滝のように崩壊し、それぞれの河川は一斉に氾濫した。濁流は滔々として流れ、崩れ落ちた巨岩も累々と重なり、土砂や木とともに荒れ狂い、ゴウゴウとどよめいた。たちまちのうちにあたりは荒野と姿を変えてしまった。

痛ましいことに、死者は十一名、傷ついた者はどれほどか分らない。加えて、流失・全半壊の家屋は七百棟あまり、埋没・浸水したものは、実に壹千五百棟あまりであった。

ああ、その凄惨なありさまは表現することができない。この報道が天子の耳に達し、恐れ多くも侍従を派遣なされ、その上、下賜金まで賜わった。天子の恩愛はことに優れたものであった。この恩情に對して、感激の涙にむせぶしかなかった。

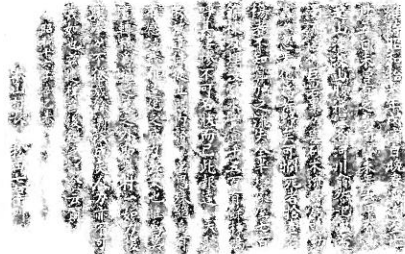
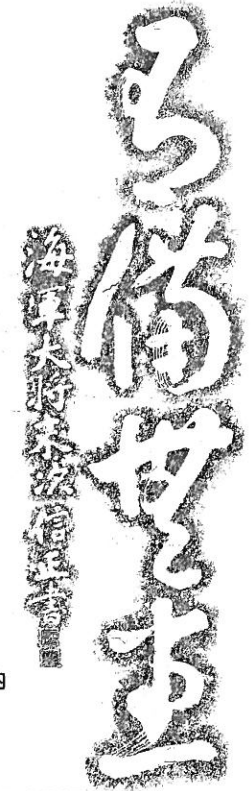
考えてみるに、自然の威力は強大なものである。今回の洪水については、我々としてはただ禍を転じて福とする方法を考える以外にはない。そこで村中の者が心を一つにして、復興に努力し、賢明に努めて怠ることなく、一年あまりでようやく復興事業も完成した。

人間の力もまた軽んずることはできないものである。

ここにこの碑を建て、後世への手本の記念とするものである。

昭和十六年辛巳春

本山村長 松田七右衛門



- ▶ 交通案内
- ◎ JR東海道線住吉駅下車 徒歩約15分
- ▶ 所在地
- 兵庫県神戸市東灘区西岡本3丁目地先 野寄公園内
- ▶ 水系名及び溪流名
- 住吉川
- ▶ 問い合わせ先
- 建設省六甲砂防工事事務所 調査課 電話078-851-0535

◆ 阪神大水害 ◆

常二備へヨの碑

阪神大水害に関する石碑である。

台座の解説文中「堅牢ナル校舎ヲ再築茲ニ復興記念ノ碑ヲ建テ将来ノ萬全ヲ期スト云フ」とあるように阪神大水害で大きな損害を受けた甲南小学校の再築を記念して、当時の流石を使用し建立された。

また「…甲山系未曾有ノ山津波ヲ起シ土砂崩壊巨岩流奔諸川ヲ埋ム住吉川其ノ害最モ甚シク洪水兩岸ニ溢レテ本校ヲ襲ヒ校舎殆ド崩壊シ…」とあるように阪神大水害の凄まじさと住吉川に面して建てられていた同校の受けた被害の大きさを記している。



碑文

常二備へヨ

平生鈇三郎書(甲南学園の創設者の一人、元文部大臣)

昭和十三年初夏霖雨多量七月五日ニ至リ豪雨殊ニ激シク六甲山系未曾有ノ山津波ヲ起シ土砂崩壊巨
 岩流奔諸川ヲ埋ム住吉川其ノ害最モ甚シク洪水兩岸ニ溢レテ本校ヲ襲ヒ校舎殆ド破壊シ為ニ可憐ナル
 学童四名附添一名溺死ノ惨状ヲ見ルニ至ル実ニ痛恨事タリ當事者熱慮善後ヲ策シ熱誠有志ノ募金ヲ得
 テ監牢ナル校舎ヲ再築茲ニ復興記念ノ碑ヲ建テ以テ将来ノ萬全ヲ期スト云フ

昭和十八年七月五日

火災五周年

校長 堤恒也



阪神電車大石駅の状況



▶ 交通案内

◎ JR東海道線住吉駅下車 徒歩約10分

▶ 所在地

兵庫県神戸市東灘区住吉本町1丁目地先 甲南学園甲南小学校内

▶ 水系名及び溪流名

住吉川

▶ 問い合わせ先

建設省六甲砂防工事事務所 調査課 電話078-851-0535

